

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和6年 6月 6日

神戸市長 様

提出者 〒651-2124  
住所 神戸市西区伊川谷町潤和824-1  
氏名 雪印メグミルク株式会社神戸工場  
工場長 関野 信昭  
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)  
電話番号 078-912-2121

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	69J0501016 雪印メグミルク株式会社神戸工場
事業場の所在地	神戸市西区伊川谷町潤和824-1
計画期間	2024年4月1日から2025年3月31日まで
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	(0913)処理牛乳・乳飲料製造業、(1011)清涼飲料製造業
② 事業の規模	製造品出荷額等 73億円/年
③ 従業員数	106名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1のとおり

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項		
(管理体制図)		
別紙2のとおり。		
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		
①現状	【前年度(2023年度)実績】 別紙3-1のとおり。	
	産業廃棄物の種類	
	排出量	t
	(これまでに実施した取組)	
②計画	【目標】 別紙3-1のとおり。	
	産業廃棄物の種類	
	排出量	t
	(今後実施する予定の取組)	
産業廃棄物の分別に関する事項		
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 別紙3-2のとおり。	
②計画	(今後実施する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 不燃物の分別強化。	

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度(2023年度)実績】別紙4-1のとおり。		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】別紙4-1のとおり。		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度(2023年度)実績】別紙4-2のとおり。		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】別紙4-2のとおり。		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

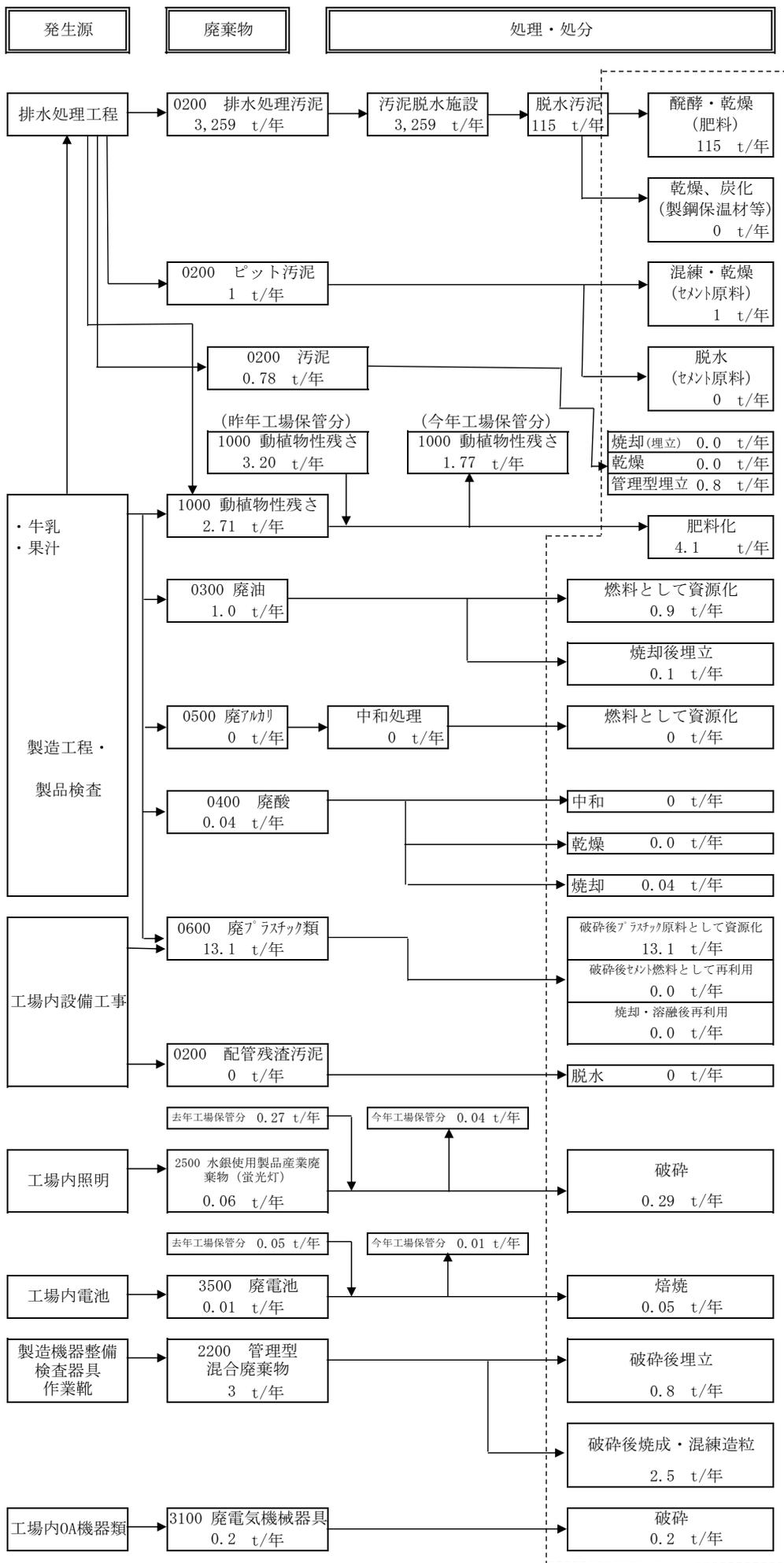
(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項		
①現状	【前年度(2023年度)実績】別紙5-1のとおり。	
	産業廃棄物の種類	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t
	(これまでに実施した取組)	
②計画	【目標】別紙5-1のとおり。	
	産業廃棄物の種類	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t
	(今後実施する予定の取組)	
産業廃棄物の処理の委託に関する事項		
①現状	【前年度(2023年度)実績】別紙6-1のとおり。	
	産業廃棄物の種類	
	全処理委託量	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t
	再生利用業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t
(これまでに実施した取組)		

(第5面)

②計画	【目標】別紙6-1のとおり。	
	産業廃棄物の種類	
	全処理委託量	t t
	優良認定処理業者への処理委託量	t t
	再生利用業者への処理委託量	t t
	認定熱回収業者への処理委託量	t t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t t
(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄		

別紙1 産業廃棄物の一連の処理工程

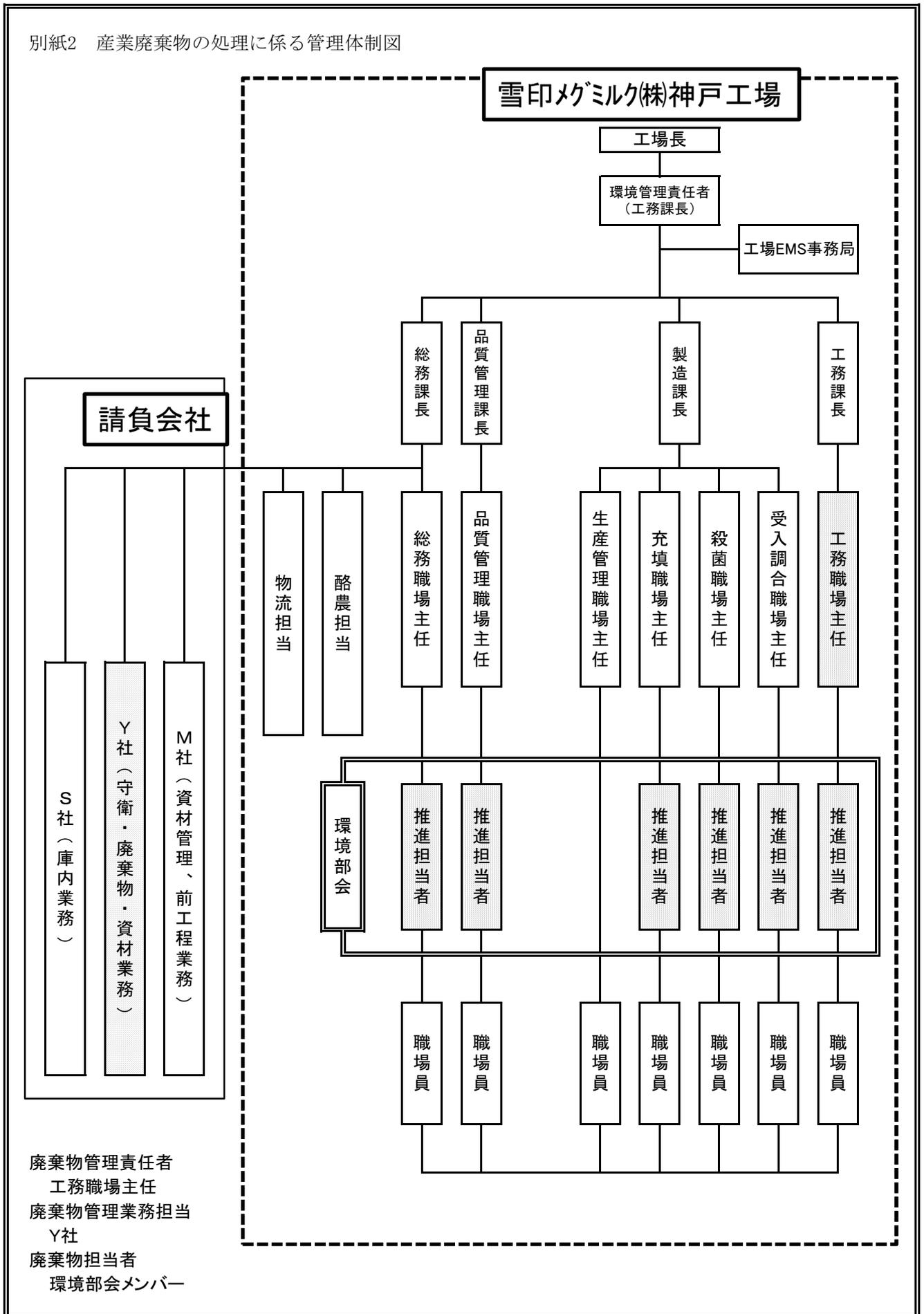


→ 廃棄物の流れ

--- 委託処理部分の範囲

※数値：2022年度の実績値。

別紙2 産業廃棄物の処理に係る管理体制図



**別紙3**

1. 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項  
 <具体的取組>

廃棄物の種類	発生量実績 (t/年) 2023年度	発生量計画 (t/年) 2024年度	排出抑制量 (t/年)	具体的取組
0200 排水処理汚泥	3,259	3,226	33	・原水流入負荷削減取組による余剰汚泥量を抑制
1000 動植物性残さ	2.7	2.7	0	—
0300 廃油	1.0	1.0	0	—
1300 ガラスくず	0	0	0	—
1200 金属くず	0	0	0	—
0500 廃アルカリ	0	0	0	—
0600 廃プラスチック類	13	13	0	—
0400 廃酸	0.04	0.04	0	—
0200 ピット汚泥	1	1	0	—
0200 配管残渣汚泥	0	0	0	—
0200 汚泥（廃試薬・製品廃棄・原料廃棄・土砂）	0.8	0.8	0	—
2500 水銀使用製品産業廃棄物（蛍光灯）	0.1	0.1	0	—
3500 廃電池	0.01	0.01	0	—
2200 管理型混合廃棄物 （廃プラ・木屑・紙屑・金属屑・ガラス屑）	3	3	0	—
3100 廃電気機械器具	0.2	0.2	0	—

2. 産業廃棄物の分別に関する事項  
 <具体的取組>

・工程毎に発生したものをそれぞれ保管する。

0200 排水処理汚泥	・排水処理脱水工程より発生する。 ・脱水処理後の含水率は85%となる。
1000 動植物性残さ	・排水処理原水入口で採取された乳固形類を主とした残さ物。
0300 廃油	・製造機器・ユーティリティ機器の整備に於ける更油・洗い油、製品検査の試薬廃棄により発生する。不純物含む。
1300 ガラスくず	・瓶牛乳製造工程の洗瓶機、充填機、原料容器により発生する。 ・色分け、種類分けにより分別している。
1200 金属くず	・原材料容器の空缶、ドラム缶、ガロン缶。 ・製造機器、ユーティリティ機器の整備により発生するアルミ・ステンレス・鉄屑等。
0500 廃アルカリ	・製造工程の洗浄施設から生じたアルカリ洗剤 ・硫酸等で中和処理（pH 12.5以下）後、業者に処分委託。
0600 廃プラスチック類	・製品、原材料容器、包装容器資材として発生する。 ・製造機器、ユーティリティ機器の整備に於ける改修工事により発生する。
0400 廃酸	・販売店、冷蔵倉庫からの戻り乳、生産工程からの抜き取り、製品廃棄、製品検査の試薬廃棄により発生する。
0200 ピット汚泥	・排水処理槽内の清掃及び配管の浚渫時に発生する。
0200 配管汚泥	・埋設配管の浚渫時に発生する。
0200 汚泥 （廃試薬・製品廃棄・原料廃棄・土砂）	・原料廃棄、製品廃棄、製品検査の試薬廃棄により発生する。 ・工場より雨水等放流する出口に堆積した土砂。
2500 水銀使用製品産業廃棄物	・工場内の蛍光灯交換時に発生する。
3500 廃電池	・工場内機器の電池交換時に発生する。
2200 管理型混合廃棄物 （廃プラ・木屑・紙屑・金属屑・ガラス屑）	・製造機器整備、検査器具、作業靴、ヘルメット廃棄時に発生する。
3100 廃電気機械器具	・工場内OA機器類の更新時に発生する。

## 別紙4

1. 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項  
〈具体的取組〉

廃棄物の種類	再生利用実績 (t/年) 2023年度	再生利用量計画 (t/年) 2024年度	再生利用量の増加 (t/年)	具体的取組
0200 排水処理汚泥	0	0	0	—
1000 動植物性残さ	0	0	0	—
0300 廃油	0	0	0	—
1300 ガラスくず	0	0	0	—
1200 金属くず	0	0	0	—
0500 廃アルカリ	0	0	0	—
0600 廃プラスチック類	0	0	0	—
0400 廃酸	0	0	0	—
0200 ピット汚泥	0	0	0	—
0200 配管残渣汚泥	0	0	0	—
0200 汚泥（廃試薬・製品廃棄・原料廃棄・土砂）	0	0	0	—
2500 水銀使用製品産業廃棄物（蛍光灯）	0	0	0	—
3500 廃電池	0	0	0	—
2200 管理型混合廃棄物 （廃プラ・木屑・紙屑・金属屑・ガラス屑）	0	0	0	—
3100 廃電気機械器具	0	0	0	—

2. 産業廃棄物の中間処理に関する事項  
〈具体的取組〉

廃棄物の種類	中間処理による 減量化実績 (t/年) 2023年度	中間処理による 減量化計画 (t/年) 2024年度	中間処理による 減量分の増加 (t/年)	具体的取組
0200 排水処理汚泥	3,144	3,110	-34	・汚泥発生量削減への推進
1000 動植物性残さ	—	—	—	—
0300 廃油	—	—	—	—
1300 ガラスくず	—	—	—	—
1200 金属くず	—	—	—	—
0500 廃アルカリ	0	0	0	—
0600 廃プラスチック類	—	—	—	—
0400 廃酸	0	0	0	—
0200 ピット汚泥	—	—	—	—
0200 配管残渣汚泥	—	—	—	—
0200 汚泥（廃試薬・製品廃棄・原料廃棄・土砂）	—	—	—	—
2500 水銀使用製品産業廃棄物（蛍光灯）	—	—	—	—
3500 廃電池	—	—	—	—
2200 管理型混合廃棄物 （廃プラ・木屑・紙屑・金属屑・ガラス屑）	—	—	—	—
3100 廃電気機械器具	—	—	—	—

## 別紙5

1. 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項  
〈具体的取組〉

廃棄物の種類	埋立・海洋投入処分実績 (t/年) 2023年度	埋立・海洋投入処分計画 (t/年) 2024年度	処分量の減量 (t/年)	具体的取組
0200 排水処理汚泥	0	0	0	—
1000 動植物性残さ	—	—	—	—
0300 廃油	—	—	—	—
1300 ガラスくず	—	—	—	—
1200 金属くず	—	—	—	—
0500 廃アルカリ	0	0	0	—
0600 廃プラスチック類	—	—	—	—
0400 廃酸	0	0	0	—
0200 ビット汚泥	—	—	—	—
0200 配管残渣汚泥	—	—	—	—
0200 汚泥（廃試薬・製品廃棄・原料廃棄・土	—	—	—	—
2500 水銀使用製品産業廃棄物（蛍光灯）	—	—	—	—
3500 廃電池	—	—	—	—
2200 管理型混合廃棄物 （廃プラ・木屑・紙屑・金属屑・ガラス屑）	—	—	—	—
3100 廃電気機械器具	—	—	—	—

